



地域と連携した 日本文理大学の取り組み —なぜ地方私立大学が必要なのか—



日本文理大学COC事業

おおいた、つくりびと

日本文理大学
副学長・工学部 教授
吉村 充功



日本文理大学の概要

建学の精神

産学一致

教育理念

人間力の育成



■ 学部・学科

【工学部】

- ⇒ [航空宇宙工学科](#)
- ⇒ [機械電気工学科](#)
- ⇒ [情報メディア学科](#)
- ⇒ [建築学科](#)

【経営経済学部】

- ⇒ [経営経済学科](#)

- [地域マネジメントコース](#)
- [ビジネスソリューションコース](#)
- [会計ファイナンスコース](#)
- [スポーツビジネスコース](#)
- [こども・福祉マネジメントコース](#)

- 1967年創立
- 前身は「大分工業大学」
- 1982年より現在の校名に
- 2023年「保健医療学部」開設

保健医療学部 2023年4月開設

診療放射線学コース／臨床検査学コース／臨床医工学コース

保健医療学科

診療放射線学コース
[診療放射線技師養成]

臨床検査学コース
[臨床検査技師養成]

臨床医工学コース
[臨床工学技士養成]



建学の精神・教育理念・教育改革の概要

建学の精神 「产学一致」

产学一致

時代の変化を捉え、柔軟な発想で、課題解決のできる人材を育成

人間力の育成

社会や人との関わりの中から、新しい可能性を創造し、挑戦を続ける人材を育成

2007年
(40周年)に
教育理念を
再編
人間力教育
を宣言！

社会・地域 貢献

常に社会・地域とのつながりを意識して、主体的に行動できる人材を育成

大学COC事業の採択

- “人間力”教育から“地域創生人”の育成へ
- 文科省 地(知)の拠点整備事業に2014年採択
- 取組テーマ：
豊かな心と専門的課題解決力を持つおおいた地域創生人材の育成
- この教育改革が
本学の現在の教育基盤



体感。感動。感謝。

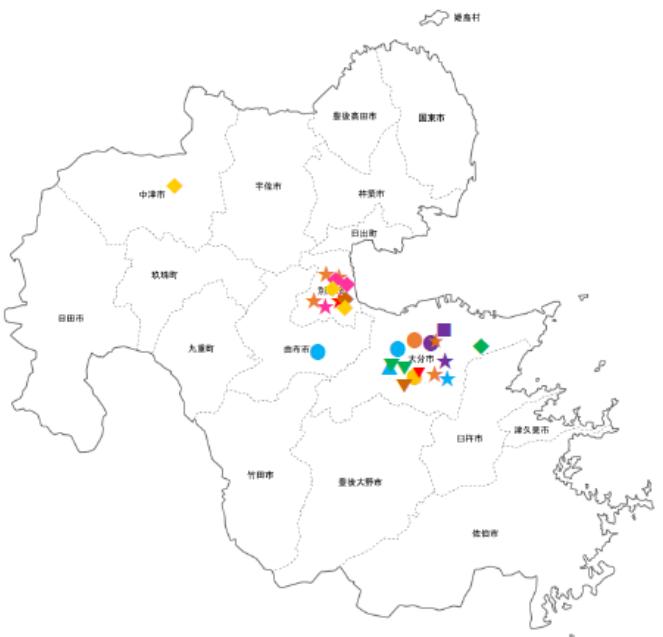
おおいた、つくりびと

大分県



● 地域産業に関する基礎データ

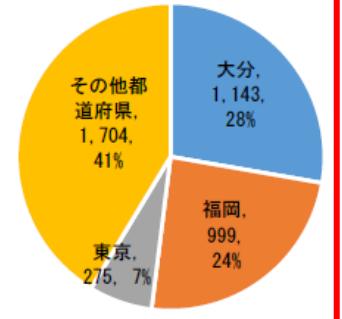
県庁所在地	大分市		事業所数
人口	1,107	(単位: 1000人)	
人口シェア	0.9%		
5年間人口増減	-45	(単位: 1000人)	
名目GDP	4,683,887	(単位: 100万円)	
GDPシェア	0.8%		
有効求人倍率	1.05	(R3年4月実数)	
平均賃金	4152.7	(単位: 1000円)	
卸売業、小売業	12,606		
宿泊業、飲食サービス業	6,336		
建設業	4,899		
医療、福祉	95,918		
卸売業、小売業	91,019		
製造業	68,567		



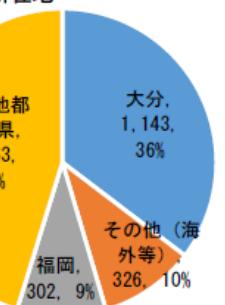
● 高等教育に関する基礎データ

18歳人口【2023】	9,861		
高校等卒業者数【2023】	9,349		
大学進学者数【2023】	4,121		
大学進学率【2023】	41.8%		
大学進学率(国公私別)【2023】	13.7%	4.6%	23.4%
短大進学率【2023】	7.3%		
専門学校進学率(現役)【2023】	18.6%		
大学数【2023】	5		
大学数(国公私別)【2023】	1	1	3
入学定員【2023】	3,850		
入学定員(国公私別)【2023】	1,070	80	2,700
大学入学者数【2023】	4,121		
県外から流入【2023】	2,091		
県内から流出【2023】	2,978		
流入出差(流入-流出)【2023】	-887		
自県進学率【2023】	27.7%		
大学進学率推計(合計)【2040】	43.3%		
大学進学率推計(男)【2040】	48.6%		
大学進学率推計(女)【2040】	37.8%		

・都道府県内高卒者の大学進学先



・都道府県内大学入学者の出身高校所在地



● 大学学部に関する基礎データ

【国】大分大学(定員合計: 1,070)			
経済学部	●	270	大分市
医学部	●	195	由布市
福祉健康科学部	●	100	大分市
教育学部	●	150	大分市
理工学部	●	355	大分市
【公】大分県立看護科学大学(定員合計: 80)			
看護学部	▲	80	大分市
【私】日本文理大学(定員合計: 740)			
経営経済学部	★	300	大分市
工学部	★★	280	大分市
保健医療学部	★	160	大分市
【私】別府大学(定員合計: 490)			
文学部	★★	270	別府市
国際経営学部	★	100	別府市
食物栄養科学部	★	120	別府市
【私】立命館アジア太平洋大学(定員合計: 1,470)			
アジア太平洋学部	★	510	別府市
サステナビリティ観光学部	★	350	別府市
国際経営学部	★	610	別府市

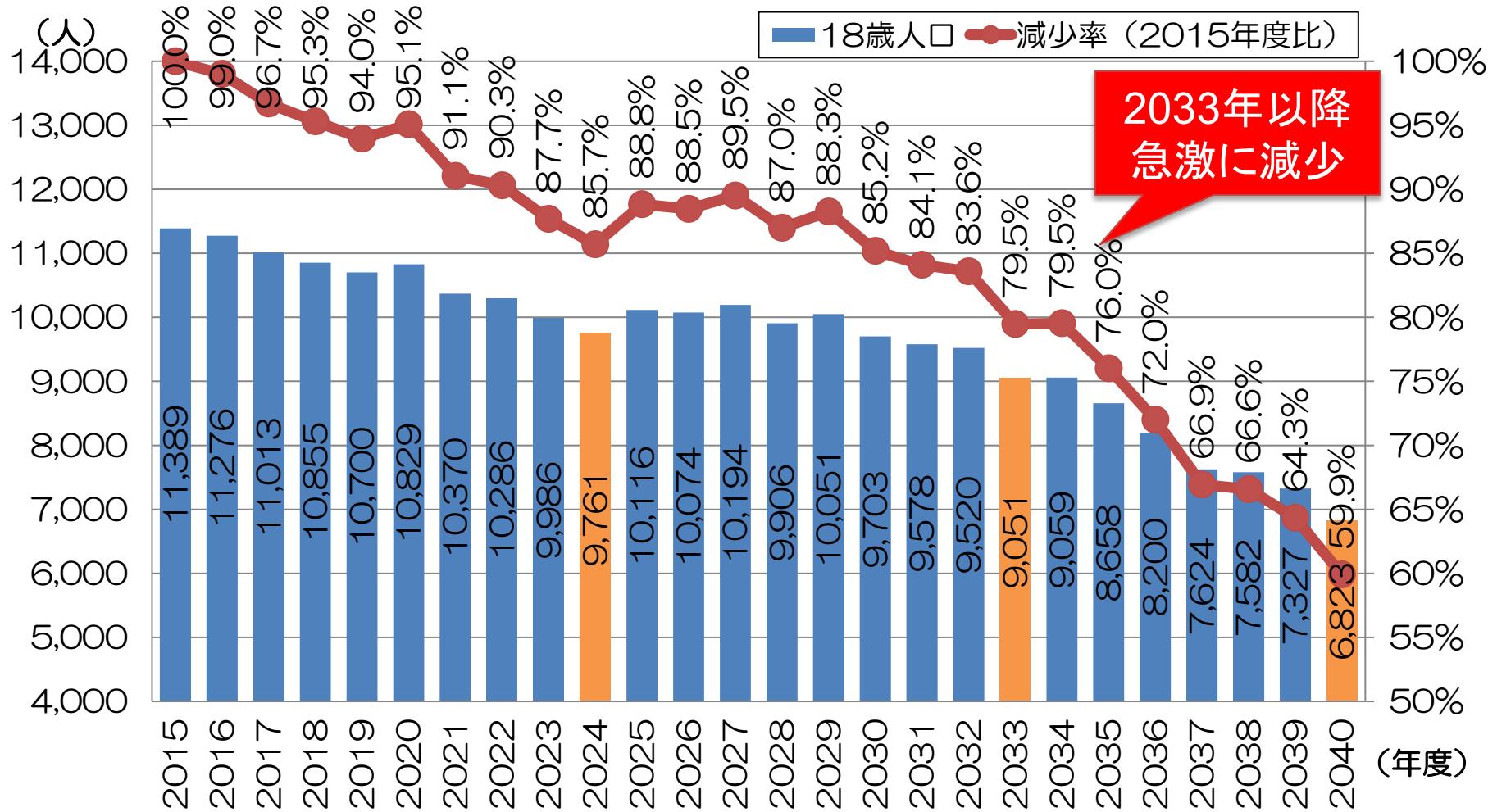
● 短期大学の学科に関する基礎データ

【公】大分県立芸術文化短期大学(定員合計: 340)			
情報コミュニケーション学科	▼	100	大分市
美術科	▼	75	大分市
音楽科	▼	65	大分市
国際総合学科	▼	100	大分市
【私】東九州短期大学(定員合計: 40)			
幼児教育学科	◆	40	中津市
【私】別府溝部学園短期大学(定員合計: 200)			
介護福祉学科	◆	30	別府市
食物栄養学科	◆	40	別府市
幼児教育学科	◆	70	別府市
ライフデザイン総合学科	◆	60	別府市
【私】別府大学短期大学部(定員合計: 250)			
食物栄養科	◆	50	別府市
初等教育科	◆	200	別府市
【私】大分短期大学(定員合計: 40)			
園芸科	◆	40	大分市

● 高等専門学校の学科に関する基礎データ

【国】大分工業高等専門学校(定員合計: 160)			
機械工学科	■	40	大分市
電気電子工学科	■	40	大分市
情報工学科	■	40	大分市
都市・環境工学科	■	40	大分市

大分県の18歳人口将来推計推移



県内18歳人口は向こう10年は横ばい。以降は全国・九州を上回るペースで大幅に減少！地域を支える若手が今以上に大幅に不足！！

県内高校生の進路状況 (2024)

※順位は都道府県順位

	合計			男			女			広域 九州圏 9県 平均	全国 平均	
	人数	割合	順位	人数	割合	順位	人数	割合	順位			
卒業者	8,832	—	—	4,470	—	—	4,362	—	—	全体		
										男女		
										52.1%	61.9%	
大学+短大	4,601	52.1%	34	2,151	48.1%	37	2,450	56.2%	32	52.1%		
										48.4%	60.6%	
										55.8%	63.3%	
大学進学	3,842	43.5%	44	2,051	45.9%	37	1,791	41.1%	45	46.5%		
										46.9%	59.6%	
										46.0%	56.9%	
短大進学	557	6.3%	1	79	1.8%	3	478	11.0%	1	4.0%		
										1.0%	0.7%	
										7.1%	5.5%	
専門学校 進学	1,570	17.8%	14	610	13.6%	16	960	22.0%	17	18.0%		
										14.6%	11.8%	
										21.4%	19.4%	
就職	2,065	23.4%	11	1,338	29.9%	8	727	16.7%	12	20.8%		
										26.5%	17.5%	
										14.9%	10.4%	

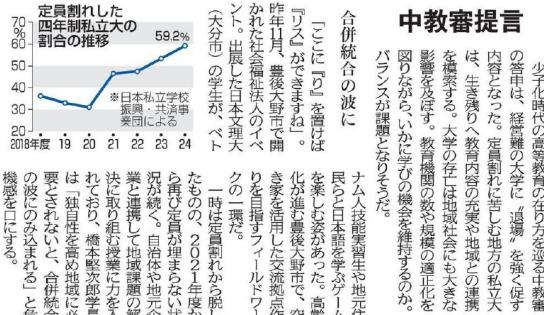
高度な高等教育を提供する大学・短大への進学は全国平均を大きく下回る状況。

特に大学（4大）進学率は全国最下位グループ（女子は下から3番目）。

進学率の底上げとリカレント教育の整備は大分県の将来にとっても不可欠。

全国で評価されるNBUの教育スタイル

共同通信配信記事として全国
25社程度の地方紙に掲載



学びの機会 格差懸念



そのため答申は、現

話した。

60

「地域と共に」活路探る 学生不足深刻な地方大学

足立は東北や中国、四国（宮城、広島を除く）での割を切るなど、特に地方で学生不足が深刻だ。

答申は、急速な少子化の影響で、大学進学者数が40年には現在の定員の7割程度にまで落ち込むと予測。今まで落ち込むと予測。

連携を発展させ、想推進フットサルの構築も提言。・短大や自治体縮小や再編を含む会の確保や人材を自ら検討するた。

「フォーム」
地元の大学
や、企業に、
古めた教育機
育成の方策
ることを求める

大分県担当課長と一緒に日本私立大学協会 地方創生協議会で先進事例として講演

吉村充功副学長 発表する

連携組織「おおいた地域連携プラットフォーム」での地域活動を説明し、「学生と汗をかけは自治体はしっかり見ている」と強調した。

県学事・私立振興課の木部哲行課長が、若年層の流れ出抑制や県内産業の振興などを、地方創生に向けて大学と連携する有用性を指摘。同プラットフォームでの活動に企業をさらに巻き込んでいくことを課題に挙げた実績を紹介。県内大学

(吉岡博之)

日本文理大と県連携事例を発表
【東京支社】大学と自治体との連携について学ぶ
日本私立大学協会の「地方
地方創生協議会
創生協議会が26日、東京都文京区内のホテルであ
り、日本文理大（大分市）と県が、学生の地域活動な
どを通じた連携事例を発表
した。
同大の吉村充功副学長

出典：
分合同新聞
2025.3.5

地元進学
若者流出防ぐ

少子化サバイバル 4

大分の連携
モデルが
全国紙で紹介

■ 既存校を生かす
大分県は、県内すべての国公私立大学の支援に乗り出している。
県は今年度から10年間の総合計画で、県内の国公私立の大学を短大などを計13校について、「定員充足率100%」(23年度は97%)

職にもつなげたい」と意気込む。プラットフォームで、地域振興を推進している日本大学、充功副学長は「自治体と大学は、連命共同体。大学が地域の一員として地域をもり立てていきた」と話している。

と「卒業生の県内就職率が50%」(22年度は41%)とする目標を掲げた。私立大学も含めた目標設定は全国的に珍しい。

産育育成が連携し、県内的人材育成や地域活性化に取り組んだため、21年度には、組合の地域連携プラットフォーム「会長 北野正剛オーム」(会長:北野正剛)が発足された。また、県内の高等教育機関や全18市町村、経済団体など66機関で構成。学生が地域に足を運び、住民や企業と一緒に課題解決を目指す活動や、県内企業と学生との接点を増やし、地域での就職を促す取り組みなどを実現している。

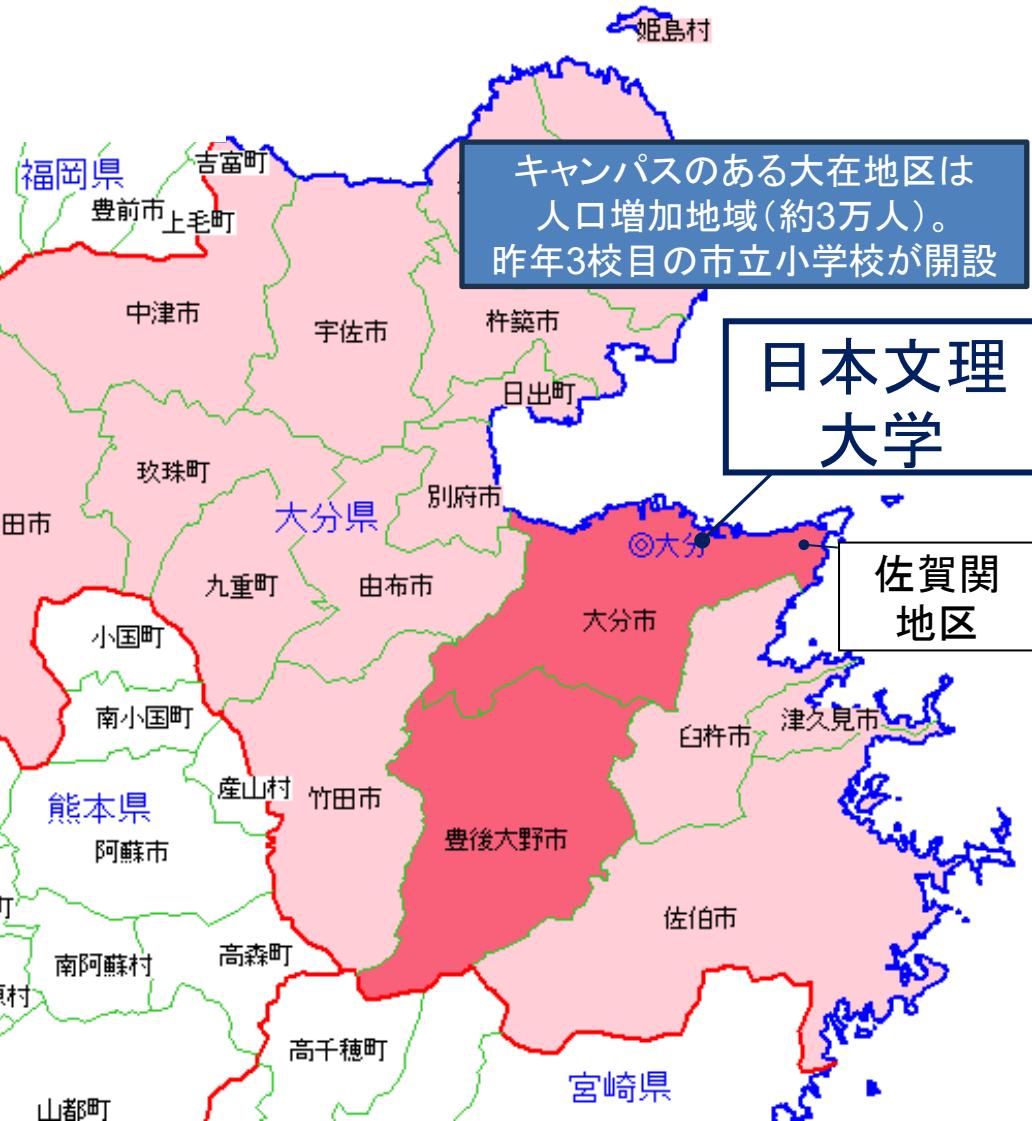
県はこれらの事業を支援し、今年度は前年度から約500万円増の約800万円の予算を計上した。県の担当者は、県内の大学生は約1万8000人。学生が地域を深く知ることで魅力を発見し、卒業後の県内就職する目標を掲げた。私立大学も含めた目標設定は全国的に珍しい。

出典: 大分合同新聞 2025.2.22

出典: 読売新聞(全国教育面)2025.1.14

COC事業の連携自治体・活動地域

現在は「佐伯市」「中津市」とも包括協定締結。活動は全18市町村へ拡大。



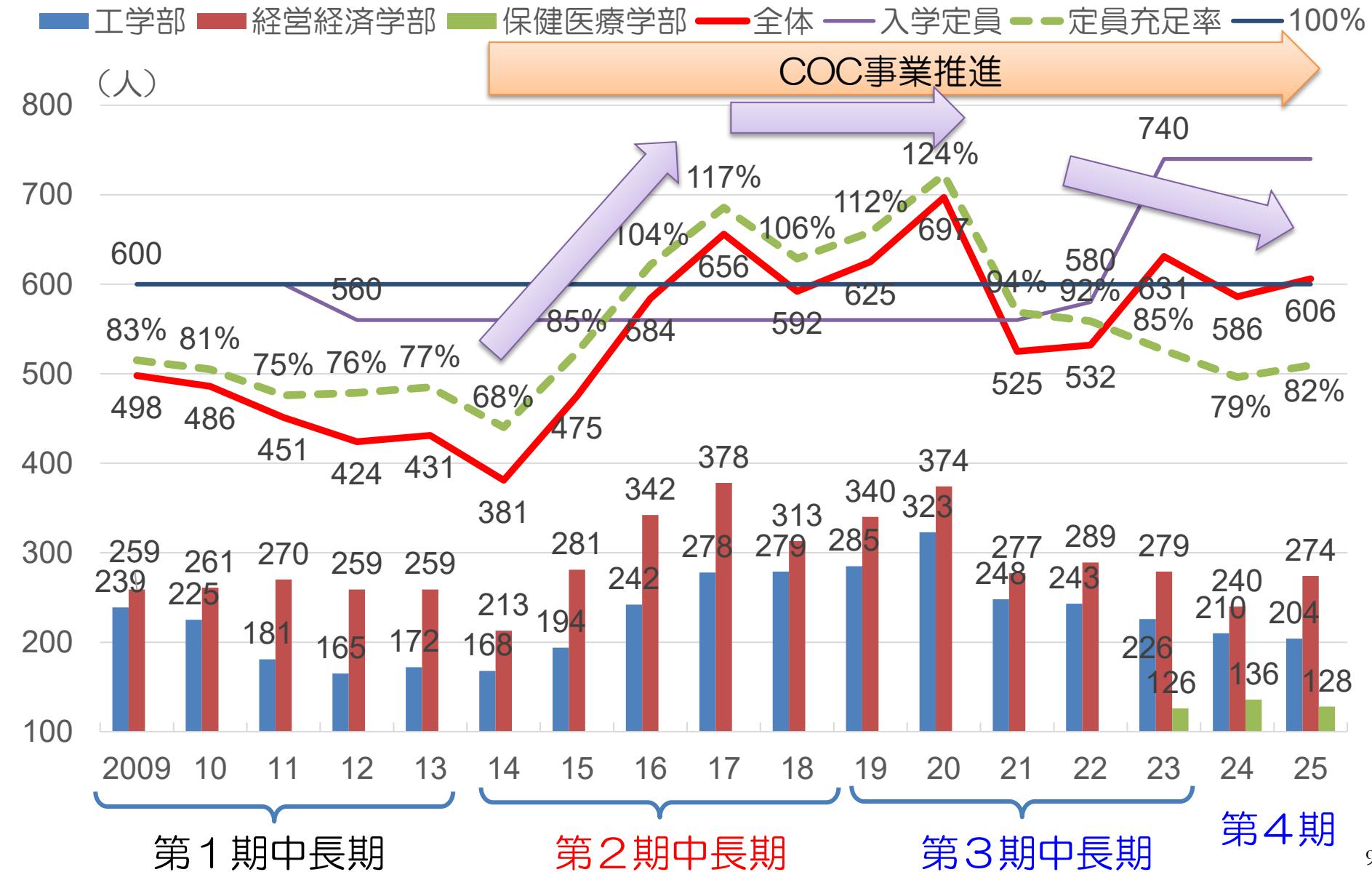
連携 自治体	2020国勢調査 人口	高齢 化率
大分県	1,123,852	33.27
大分市	475,614	27.64
豊後 大野市	33,695	44.32

佐賀関地区の人口8,072人、
高齢化率は56.5%

※2020年9月末の数字

少子高齢化が深刻な
地域から積極的に学び
地域を創生

入学者数の推移 (2009-25)



10年の教育改革の成果① 「県内入学者」

■ 大分県出身学生総数の推移

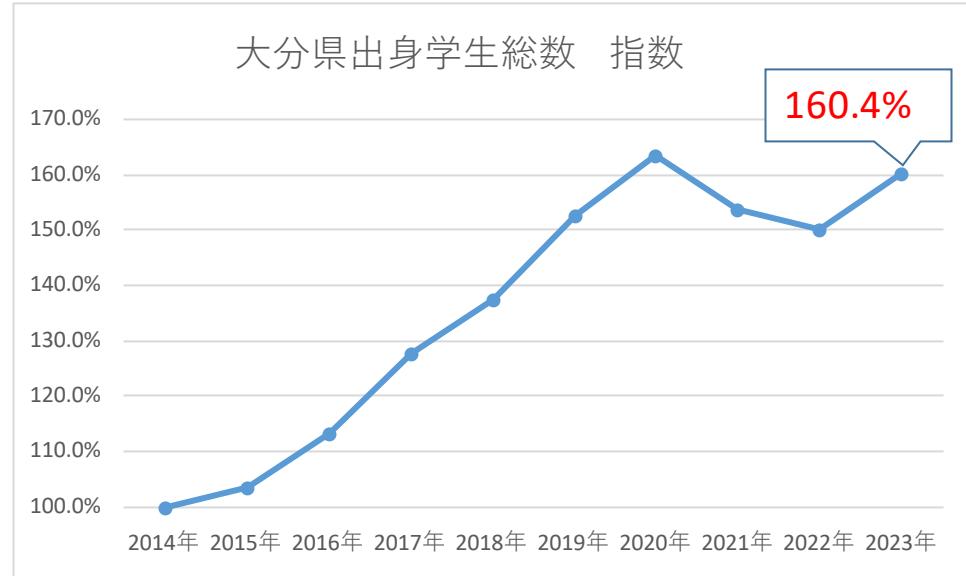
2023年度

・大分県出身学生総数推移

2014年对比で 160.4%

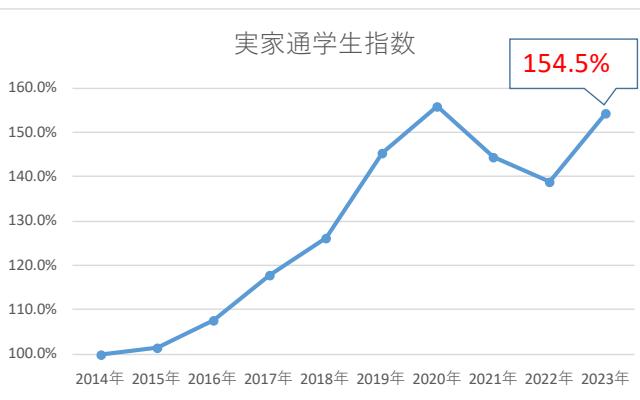
(入学者数では205.5%)

(2023年 県内学生出身者
比率 39.2%)



実家通学生指数

154.5%



大分県出身入学者 指数

205.5%

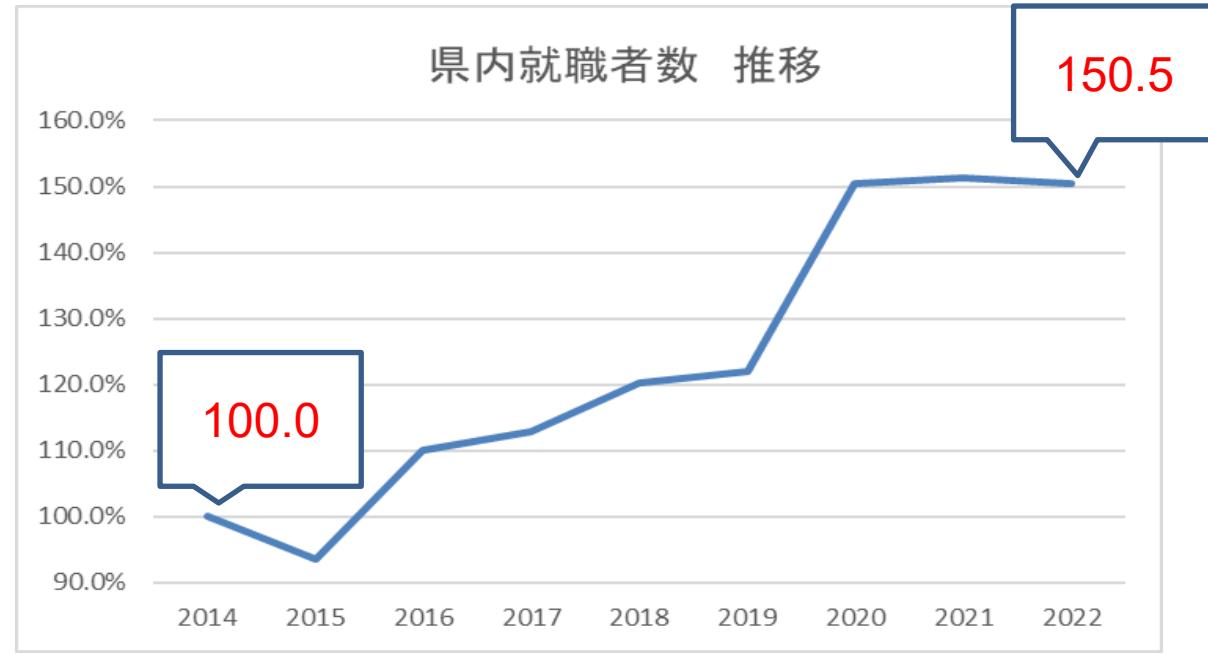


保健医療学部の
開設(2023年)
で大分県出身者
が増加

10年の教育改革の成果②「県内就職者」

2022年度

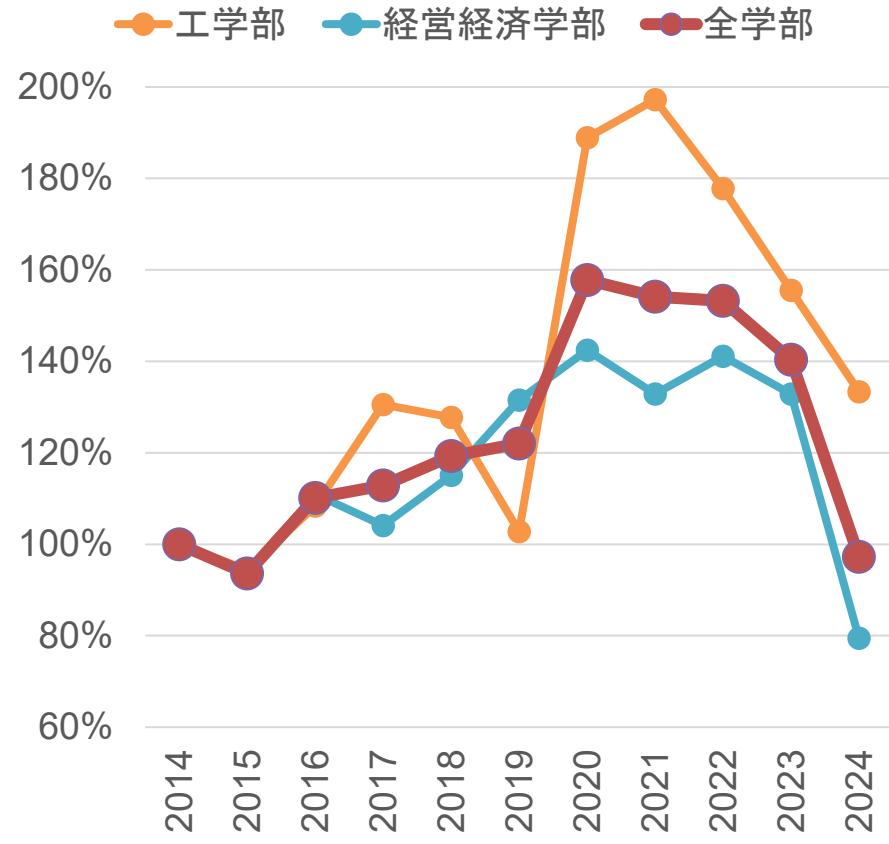
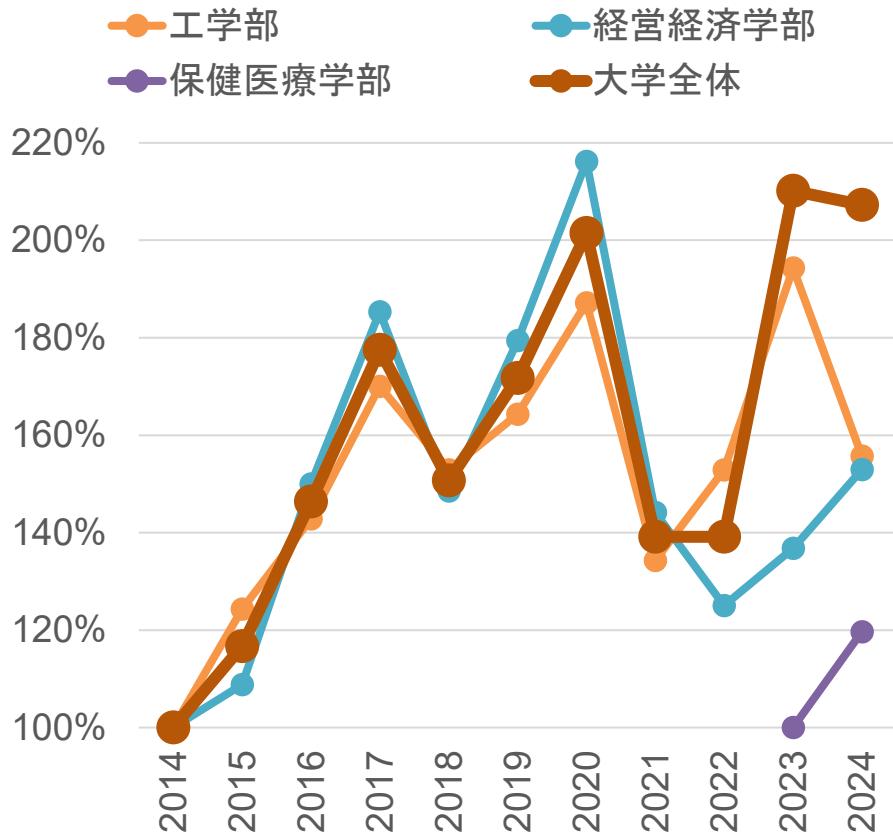
・2022年度
県内就職者数
2014年対比で
150.5%



(2014年を100として)

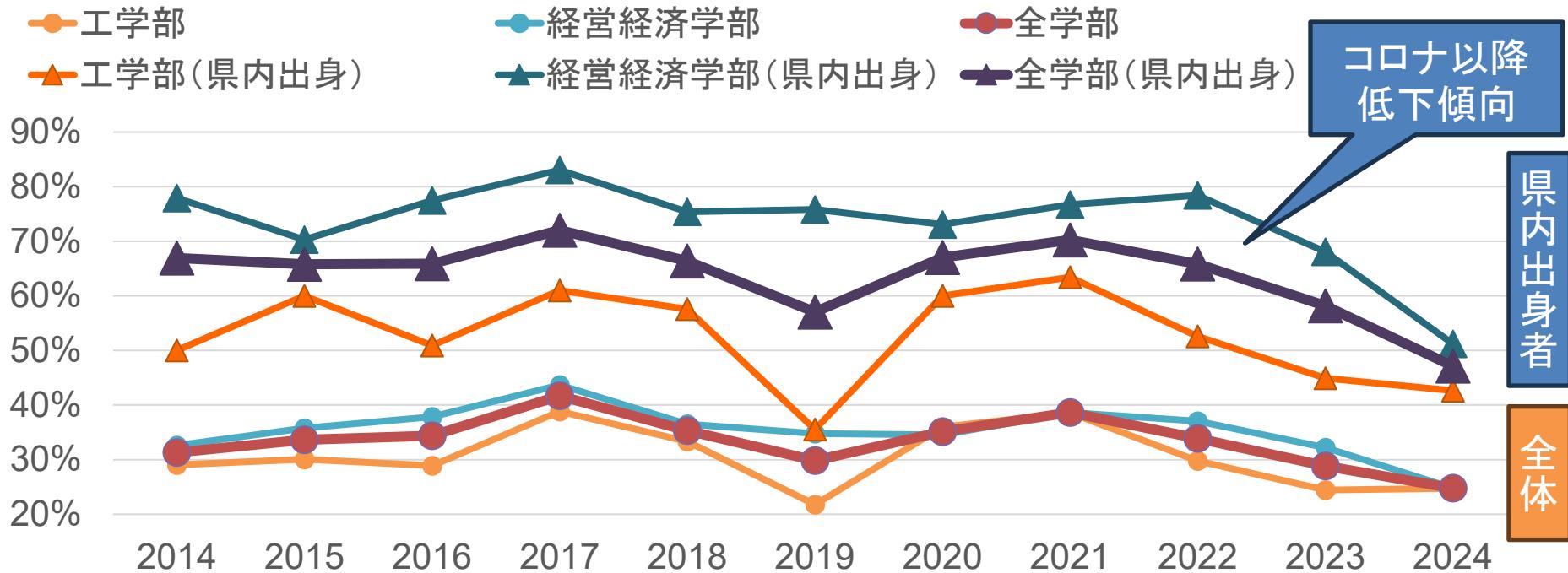
地域に根ざした大学としての10年

県内出身入学生数の推移 (2014年比) 県内就職者数の推移 (2014年比)



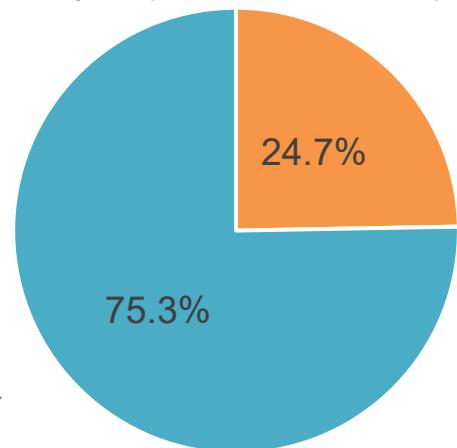
2024年度 修学支援制度受給率: 19.2% JASSO奨学金受給率: 64.7%
本学独自の奨学金給付率: 76.3% (2024年度入学生)

県内就職率の推移

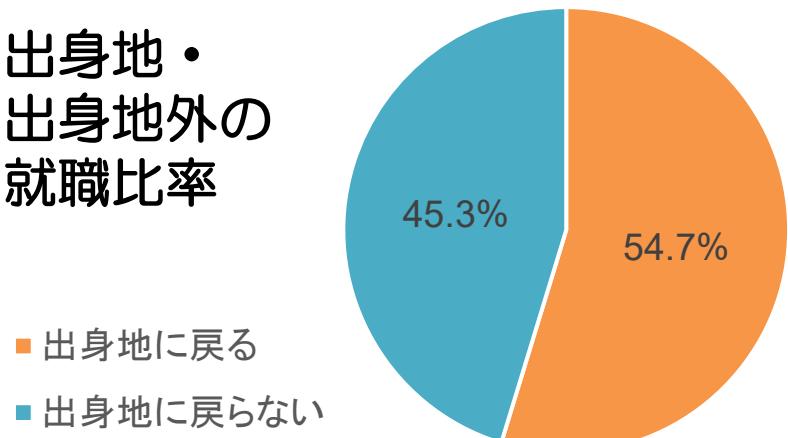


2023年度卒業生の就職状況

三大都市圏
・それ以外
の就職比率



出身地・
出身地外の
就職比率



採用企業の声

高い倫理感、使命感
と未知の課題にも
挑戦しようとする意欲

バイタリティ、
行動力、論理的
的思考

向上心があり
若者ならではの
思考力

自らの考えを持ち、
言語化して伝える
能力が高い

コミュニケーション能力
があり、必要な資格も
有していた

周囲を牽引す
る力、人当たり

専門科目の基礎的な
教養、それらを活かし
てモノづくりに取り組
む意欲の高さ

周りからの評判も
良く、常に熱心な
姿勢で学ぶ意欲

協調性や大分県
や地域の方への
貢献意欲

真面目で素直、
協調性が高い

謙虚で何事に
も真剣に取り
組む姿勢

社会人としての
今後の伸びしろ

仕事や業界に
対する興味や
探求心があった点

入社後の働きぶり等の総合的評価

■① 期待以上 ■② 期待通り ■③ これからの成長に期待 ■④ 期待とは異なる ■⑤ 期待とは大きく異なる

22%

38%

39%

1%

本学の教育概要

建学の
精神

产学一致

教育理念

人間力の育成

社会・地域貢献

COC(地(知)の拠点:Center Of Community)大学としての教育研究活動

学部・学科・コース

【工学部】

機械電気工学科
建築学科
航空宇宙工学科
情報メディア学科

【経営経済学部】

ビジネスリリューションコース
地域マネジメントコース
会計ファイנסコース
スポーツ・ビジネスコース
こども・福祉マネジメントコース

【保健医療学部】

診療放射線学コース
臨床検査学コース
臨床医工学コース

各学部の教育+
3学部連携教育

(ものづくり・マネジメント・医療技術)

教養教育

専門教育

地域連携教育

体験交流
(地域)



知識修得
(学内)



課題解決プロジェ
クト(地域・学内)



学部混成
ワークショップ

実務家教員による
実践知識

実践型
教育研究

データサイエンス教育

キャリア教育・インターンシップ(企業・行政等
外部との連携・就職サポートプログラム)

正課外教育(NBUチャレンジプログラム・人間
力育成センター(地域活動)・部活動等)

人間力と専門能力、職業能力を兼ね備え、
地域経済社会の発展となる産業人を輩出


 プロジェクト
1

小規模・高齢化が深刻な 集落におけるコミュニティ支援

豊後大野市大野町土師地区 (人口約200人, 高齢化率約67%)

1年「大分学・大分楽」

3年「環境・地域創造演習」

1年「プロジェクト1」

1年「森里海連環
学と地球的課題」

2年「データ
解析演習」

2年「流体
生態論」

2年「環境
計画論」



3年「建設マネジメント実習」

正課外活動

3年「地域再生論」

3年「研究ゼミ」

4年「卒業研究」

体験交流活動

知識の修得

課題解決型学修

プロジェクト
3

豊後大野市の地域資源を活かした 観光コミュニティビジネスの開発



豊後大野市…温泉はないが、ジオパーク・エコパークに代表される自然・暮らし・文化を背景にした地域資源は豊富

1年「大分学・大分楽」

1年「森里海連環
学と地球的課題」

2年「社会調査法」

1年「フィール
ド・スタディⅠ」

2年「観光学
入門」

2・3年「フィール
ド・スタディⅡ・Ⅲ」

2年「観光ビ
ジネス論」

豊後大野紅葉くらべコースの提案
白山渓谷 → 宝生寺 → 用作公園

3年「地域経営論」

2～4年「ゼミナール」

3年「地域
イノベー
ション論」



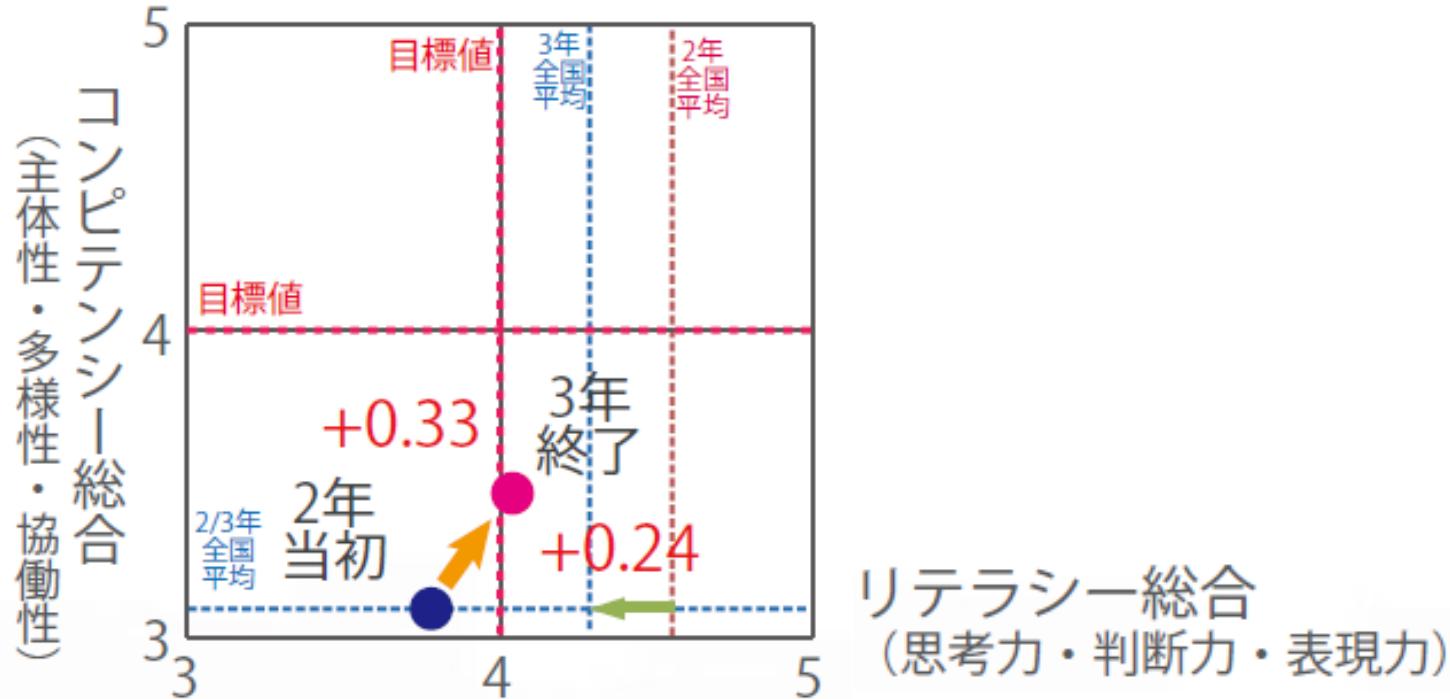
体験交流活動

知識の修得

課題解決型学修

どのような成果が見られたのか？

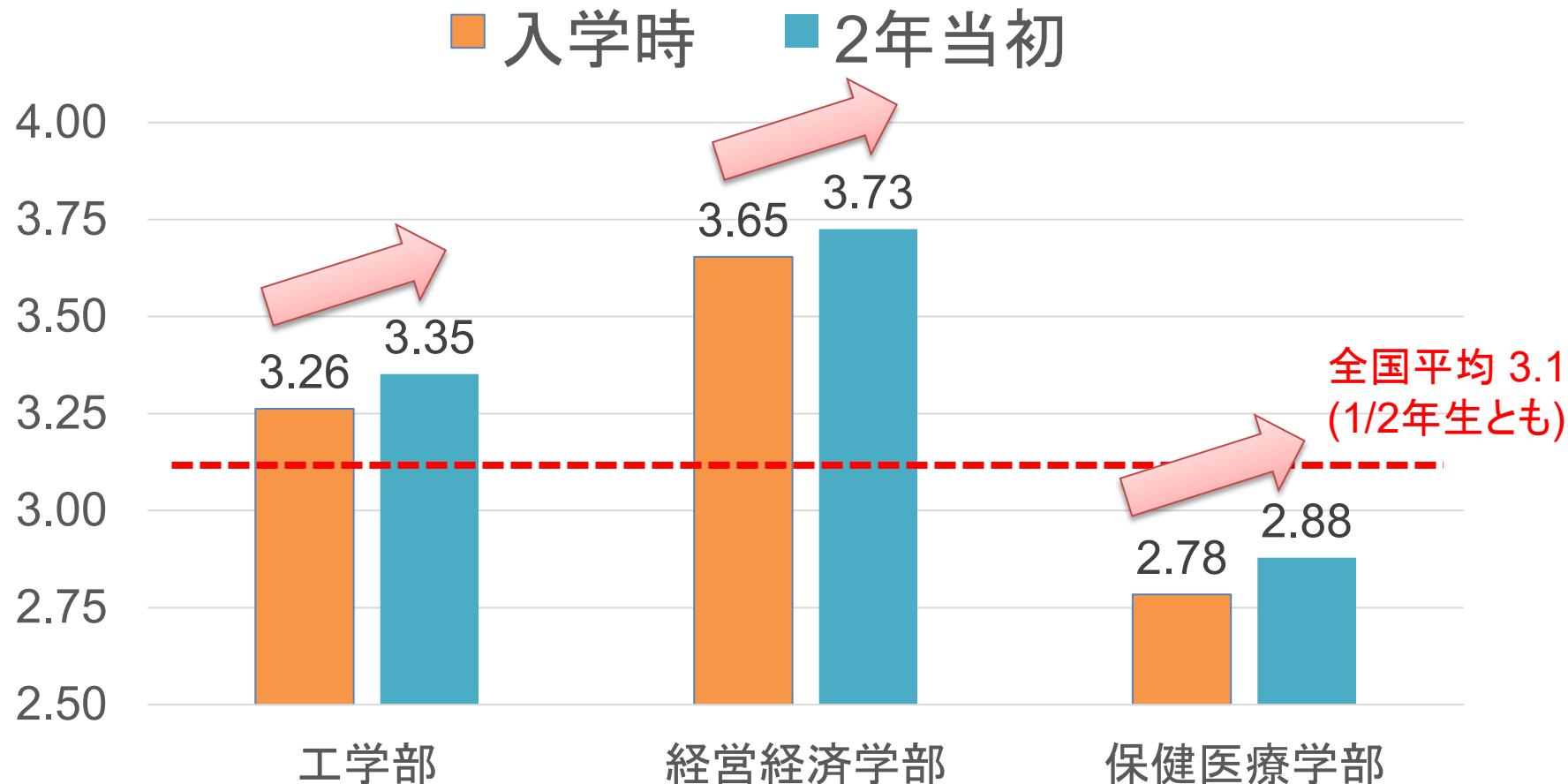
- ✓ ジェネリックスキル（汎用的技能）の成長（現3年生）



【最終年度達成目標】

地域で活躍するために必要な力の基礎として、ジェネリックスキル（汎用的技能）を措定。河合塾・リアセックによる客観テスト「PROG」により計測し、その構成要素であるリテラシーとコンピテンシーのそれぞれの3年終了時の平均スコア4.0以上（レベル7が最高）を目標として設定。

入学後からのコンピテンシー（人間力）の成長



※現2年生のPROGテスト(河合塾・リアセック)の受験結果
(コンピテンシーの総合スコアで最大は7)

※コンピテンシーは対人・対自己・対課題によりよく向き合う力で経験に基づく行動特性

どのような成果が見られたのか？



本学の地域貢献を評価する県民の割合

2014
年度

26.9%



2018
年度

55.0%

(182名回答)

(191名回答)



大分市・豊後大野市以外の県内

2014
年度

14.3%



(35名回答)

2018
年度

33.3%

(18名回答)

地域連携をどう進めたのか？

- 2007年「人間力育成センター」創設以来、
地域貢献活動を各種外部団体と個別連携で実施
→**学生**が地域で活動する意義（教育、社会貢献）
が**見える化**
- 2014年「学長室」の設立
→**権限**の明確化、**方針**の一元化
- 2014年の文科省「大学COC事業」への申請に
当たって、3自治体（県、2市）に協力依頼
→**採否にかかわらず**、連携を進める**覚悟と意向**

地域で教育？理工系の大学が地域連携？

COC事業を通じた連携強化

連携推進会議（実務担当）

- 毎年夏頃実施（ハイブリッド）
- 地域での各種取組報告を担当
教員から分科会方式で発表
- 自治体担当者・協定機関から
部局を超えて複数参加



外部評価委員会（部長級以上）

- 毎年度末に実施（ハイブリッド）
- 部長級、副市長が出席
- 成果報告、学生発表、次年度
に向けた協議



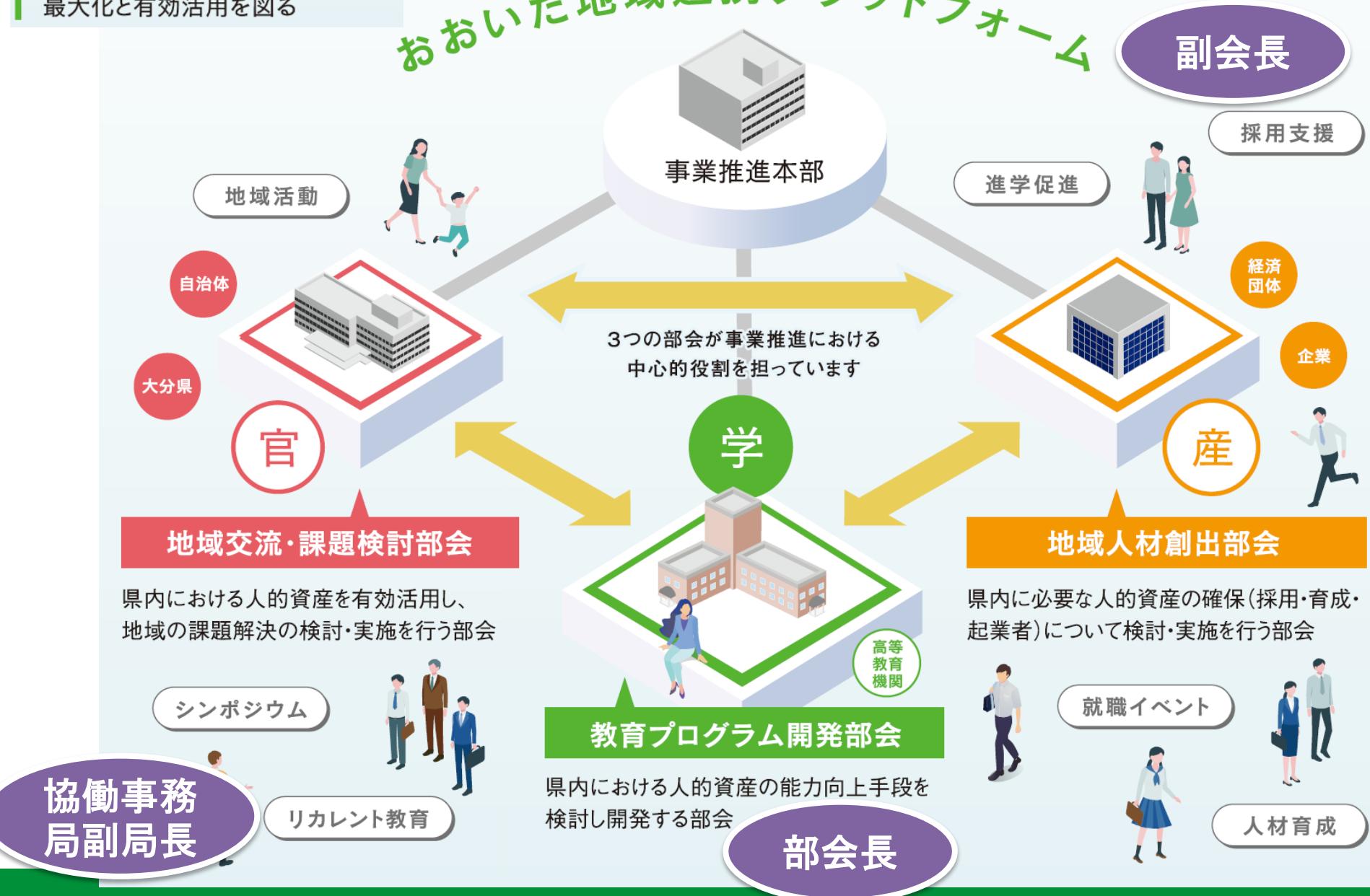
文科省補助事業終了後も継続して実施

おおいた地域連携 プラットフォーム における本学の役割

人口減少に対応するべく、産学官が
協働（オール大分）で大分県の
人的資産（地域資産）の
最大化と有効活用を図る

学び、働きたくなる、
活気あふれるまちへ。

おおいた地域連携プラットフォーム



協働機関 (全62機関：令和6年4月1日時点)

高等教育機関
(学校コード順)

大分大学 大分県立看護科学大学 日本文理大学 別府大学 立命館アジア太平洋大学 大分県立芸術文化短期大学 大分短期大学 東九州短期大学 別府溝部学園短期大学 別府大学短期大学部 大分工業高等専門学校 放送大学大分学習センター

国機関

大分労働局

地方公共団体
(市町村コード順)

大分県 大分市 別府市 中津市 日田市 佐伯市 白杵市 津久見市 竹田市 豊後高田市
杵築市 宇佐市 豊後大野市 由布市 国東市 姫島村 日出町 九重町 玖珠町 大分県教育委員会 大分県産業創造機構 大分県立工科短期大学校 (大分県)

経済団体

大分県商工会議所連合会 大分県商工会連合会 大分県中小企業団体中央会 大分県経営者協会
大分経済同友会 大分県中小企業家同友会

連携企業等
(五十音順)

(株)オーイーシー (株)大分銀行 大分県信用組合 大分交通(株) (有)大分合同新聞社 (株)大分放送 大分信用金庫 大分みらい信用金庫 (株)オーシー 九州電力(株) 大分支店 三和酒類(株)
(株)佐伯コミュニケーションズ 社会福祉法人新友会. (株)地域科学研究所 (株)テレビ大分
東京海上日動火災保険(株)大分支店 (株)トキハ 日本政策金融公庫大分支店 (株)豊後企画集団
(株)豊和銀行 柳井電機工業(株)

“オールおおいた”で高度人材育成や地域活性化

県内大学群

東九州短期大学

中津市

別府市

由布市

大分市

別府大学・別府大学短期大学部
真理はわれらを自由にする



Shape your world



Ritsumeikan
Asia Pacific University

別府溝部学園短期大学
Beppu Mizobe Gakuen College

放送大学 大分学習センター

国立大学法人
大分大学
OITA UNIVERSITY

Oita University of Nursing and Health Sciences
大分県立看護科学大学

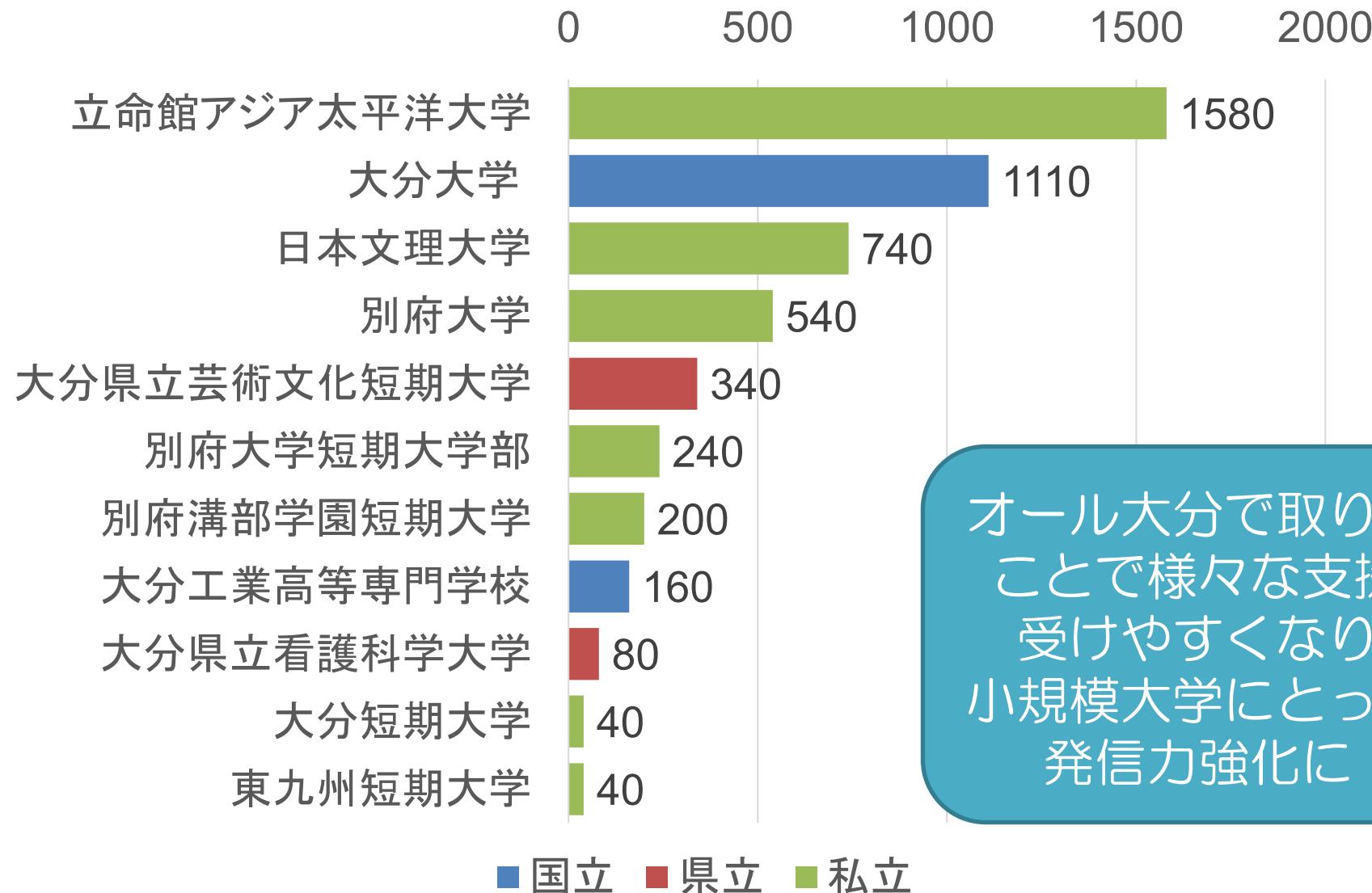
NBU 日本文理大学
NIPPON BUNRI UNIVERSITY

OITA PREFECTURAL COLLEGE OF ARTS AND CULTURE
大分県立芸術文化短期大学
OITA PREFECTURAL COLLEGE OF ARTS AND CULTURE

大分短期大学

独立行政法人 国立高等専門学校機構
大分工業高等専門学校
National Institute of Technology, Oita College

入学定員別に見た各大学の規模



オール大分で取り組むことで様々な支援を受けやすくなり、小規模大学にとって発信力強化に！

主な取組内容

地域交流・課題検討部会

研究機能を活用した 地域課題解決



県や市町村、産業界が提供する地域課題に対して大学等の「知」を活用し、解決に向けて産学官連携による活動を行います。

地域交流・課題検討部会

学生による地域貢献



事業運営 事務局

「実践型地域活動事業」を通して、学生が地域に足を運び、地域住民や企業と一緒にになって課題解決を行います。

教育プログラム開発部会

生涯学習支援事業 「豊の国学リレー講座」



県内大学等が連携して、地域の歴史・地理・産業・人物等について学ぶ授業や企業が求めるスキル等を習得する授業の実施を行います。

地域人材創出部会

県内定着率(進学・就職) 向上の取り組み



県内の企業や自治体が参加できる事業を産学官連携で実施することにより、学生との「出会いの場」を提供しています。

地域人材創出部会

進学率向上に向けた 高大接続の取り組み



事業運営 事務局

県内大学等による学生の研究成果を高校生に提示することにより、県内進学の促進を図っています。

県内产学研官連携による人材育成のきっかけ

2015年度スタート

2017年度に拡張

地域と企業の心に響く若者育成プログラムと大分豊じょう化プラン

地(知)の拠点大学による 地方創生推進事業(COC+)

ともに創ろう

創造するまち・企業を!
地域を照らす若者を!

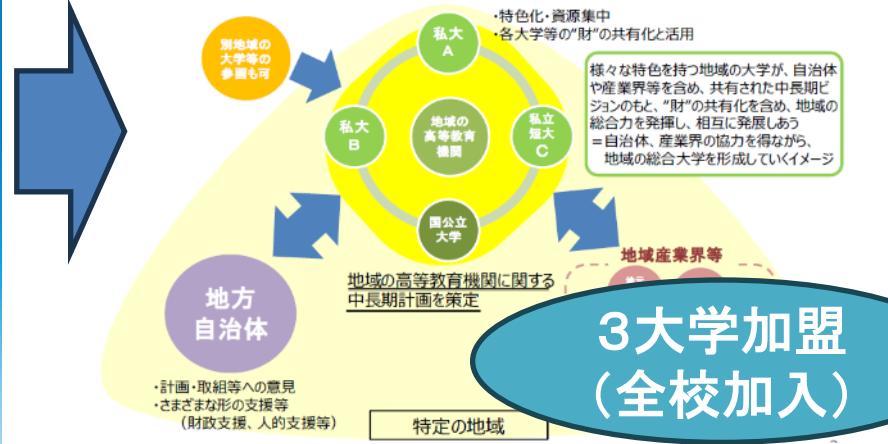
8大学
連携



大学等による「おおいた創生」推進協議会

【タイプ5】プラットフォームの構成（イメージ）

プラットフォーム = 特定の地域における高等教育の活性化を目的として形成された、高等教育機関及び、当該地域の地方自治体や産業界等を含む連携体制。



地方創生に向けた

- ・地域で活躍できる
若者の育成
- ・若者に魅力のある
就職先の創出
- ・高等教育の活性化 等

県内大学連携組織が2021年度パワーアップ！



大学等による「おおいた創生」推進協議会

大学群 教育プログラム開発

「大分を創る」科目群の構築・実施(地域志向科目、単

一部加盟
大学が異なる

協働事業		
シーズとニーズのマッチング促進	インターンシップ フィールドワークの充実	県内企業と学生のマッチング促進
<ul style="list-style-type: none"> ●地域連携コンソーシアム等と連携 ●合同研究成果発表会 ●共同・受託研究の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ●利益共有型中長期インターンシップ ●魅力発見セミナー ●大分労働局と連携 	<ul style="list-style-type: none"> ●シゴト発見フェスタ ●農山漁村現場体験学習



学と学の連携による知の総合交流拠点 大分高等教育協議会

地域の 教育力・文化力・研究力の向上を図り

おおいた創生における高度人材育成及び地域の発展に貢献することを目指します。



組織統合

おおいた地域連携プラットフォーム

大学群

地方公共
団体等

経済団体

国機関等

関係団体

連携企業等

オール大分

フィールドワーク支援事業等の地域活動支援 (2016年度から県の財政支援による県内大学公募型事業)

2024年度 実施事業一覧

フィールドワークを通じての地域課題解決事業(フィールドワーク支援事業)

大学等の教員が企画し、学生と共に地域に直接出向く、地域課題等の解決を図る事業活動を通じて学生が地域課題に気づくこと、課題解決を図ることで地域に貢献すること、学生との交流を通じて地域が活性化すること、また、学生の地域への貢献を深めることをねらいとしています。

県内各地域においてバランスよく活動が展開されるよう、大分市・別府市以外の地域を対象とした「地域枠」(No.1~10)と大分市・別府市を含む県内全域を対象とした「自由枠」(No.11~21)を設けています。

No.	大学名	代表者	事業名	実施地域	頁
1	大分大学	教育学部 教授 市原 雄太	地域連携によるSTEAM教育ワークショップと指導者の育成	日出町 国東市	7
2	大分大学	経済学部 教授 石井 まこと	地域の生活・仕事創造から学ぶ地域つなきプロジェクト	佐伯市	8
3	大分大学	経済学部 講師 子 松平	小麦田舎の里における地域活性化プロジェクト	日田市 (日田町、小畠田舎の里)	9
4	大分大学	経済学部 教授 渡邊 博子	佐伯市大入島イノベーションプロジェクト ~地域活性化のアイデア創出とその実践に向けて~	佐伯市 (大入島)	10
5	日本文理大学	工学部 准教授 江越 充	竹崎城下町 夜間観覧向上ワークショップ	竹崎市 (城下町エリア)	11
6	日本文理大学	工学部 助教 福田 健	外国人住民との共生社会実境に向けたモノづくり・コトづくりプロジェクト	豊後大野市 (大野町)	12
7	別府大学	食物栄養学部 教授 陶山 明子	梨の葉を利用したお茶の製造	由布市	13
8	大分県立芸術 文化短期大学	国際経営学科 講師 秋庭 淳志	中津市本馬場地域の放置果樹に係る課題解決に 向けた体験型サービスの開発	中津市 (本馬場地域)	14

No.	大学名	代表者	事業名	実施地域	頁
19	別府大学	文学部 教授 渡辺 智恵美	地域文化財と大学博物館を活用した人材育成 ~小学生を中心とした地域の歴史探訪と体験教室を通して~	別府市	25
20	別府大学 短期大学部	食物栄養学部 准教授 浜野 香奈	~がんサバイバーの「食べたい」を叶えるメニュー提案~ Cocoro Support Project	別府市 日出町	26
21	立命館アジア 太平洋大学	システム工学部 教授 須藤 哲啓	龜川商店街再活性化計画策定事業(IV)	別府市 (龜川商店街)	27

No.	大学名	代表者	事業名	実施地域	頁
9	別府講師学園 短期大学	食物栄養学科 教授 牧 昌生	オリーブ栽培農家の6次産業化をめざして ~オリーブ不良果実を利用した商品の開発~	国東市	15
10	別府講師学園 短期大学	食物栄養学科 准教授 砂原 美和子	本馬場深の観光推進事業(温泉・観光・食) 道の駅(那馬トピア)周辺の観光活性の可能性と集客力 アップを探るフィールドワーク支援事業	中津市 (本馬場深)	16
11	大分大学	医学部 教授 加隈 香也	被災地住民の防災やコミュニティに対する意識の 変化と健康状態の調査	由布市 (湯布)	17
12	大分大学	教育学部 准教授 川田 葉穂子	湯治さらし家庭:ゆたかな食生活を通じた well-being向上プロジェクト	別府市 (竹崎温泉地区)	18
13	大分大学	経済学部 准教授 三好 稔之	ノルティック・ウォークを用いた健康寿命の延伸と 地域の扱い手づくり事業	大分市 (府内、日田、じこひ)	19
14	大分大学	経済学部 講師 崔美 淑子	大分県内(別府市)災害時ににおける外国人対応について、 避難および避難所に関する必要な英語の聞き取り・防災 マップ作り(避難用語・避難所に使用できる使い方の検証)	別府市	20
15	大分大学	医学部 教授 三重野 英子	大学生認知症サポートによる共生社会実現プロジェクト	由布市 (大野、中津、吉布)	21
16	大分大学	理工学部 講師 江藤 真由美	別府明礬地区にて生産される「湯の花」の地球化学的 現地調査	別府市 (明礬地区)	22
17	大分大学	理工学部 助教 賀川 経夫	地域活性化に向けたオープンデータを活用する 「まちあらきアブリ」の作成	大分市 (中野、由布市、吉布)	23
18	別府大学	国際経営学部 講師 小野 真史	文化財保存・継承と観光活用プロジェクト ~戦後80年に向けたビースターリズム~	宇佐市・国東市・ 竹崎市・別府市・ 津久野町・大野町・ 佐伯市・日出町・ 荒尾町	24

大分県・県内市町村・企業等と県内高等教育機関の連携による地域課題解決事業

大分県・県内市町村・企業等との連携により、「地(知)の授点」としての大学等(大学、短大、高専)が持つ研究開発機能やシンクタンク機能を活用し、教育や産業振興、医療・福祉の充実、地域活性化など多様な地域課題に応対する事業です。

大分県と県内高等教育機関の連携による地域課題解決事業

大分県・県内市町村・企業等との連携により、「地(知)の授点」としての大学等(大学、短大、高専)が持つ研究開発機能やシンクタンク機能を活用し、教育や産業振興、医療・福祉の充実、地域活性化など多様な地域課題に応対する事業です。

大分県と県内高等教育機関の連携による地域課題解決事業

大分県・県内市町村・企業等との連携により、「地(知)の授点」としての大学等(大学、短大、高専)が持つ研究開発機能やシンクタンク機能を活用し、教育や産業振興、医療・福祉の充実、地域活性化など多様な地域課題に応対する事業です。

別府市と県内高等教育機関の連携による地域課題解決事業

別府市と県内高等教育機関の連携による地域課題解決事業

大分県と県内高等教育機関の連携による地域課題解決事業

大分県と県内高等教育機関の連携による地域課題解決事業

No.	市町村名	大学等名	代表者	事業概要	頁
25	大分市	大分大学	研究マジック・橿原 准教授 小川 錠一	若手英豪育成事業で実施するアンケート調査結果や 今後の方向性等に関する監修等の支援	—
26	別府市	別府大学	文学部 教授 長尾 秀吉	別府市フル・ブリュートの芽はえ葉(葉がい)の芸術活動 ~障害者活動に合わせて月1回(1月~10月)月2回(11月~4月)の葉がいの芽を育む ~葉がい(葉)の育成と栽培技術の普及による地域活性化 ~葉がい(葉)の育成と栽培技術の普及による地域活性化 ~葉がい(葉)の育成と栽培技術の普及による地域活性化	—
27	中津市	大分県立芸術 文化短期大学	国際総合学科 講師 秋庭 淳志	放置果樹の活用 ~人手不足の後発者不足などにより果樹が放置されたままとなっている本県馬場地区に向けた取り組み~	—

No.	市町村名	大学等名	代表者	事業概要	頁
28	中津市	大分県立芸術 文化短期大学	国際総合学科 講師 秋庭 淳志	地元就職に向けた門司・明月会等の企画 ~就職会や就職説明などにより多くの学生の前に就職する、市内企業を訪問 ~企業の魅力をPRする	—
29	中津市	別府講師学園 短期大学	食物栄養学科 准教授 安達 美和子 准教授 江島 瑛子	青の洞門歴史を基軸とした本馬場深の観光振興 ~中津市馬場ぬれの洞門の洞門門、青の洞門(じこひのゆきのゆき)と本馬場町(ほんばばちょう)の青の洞門が起きたもの。長い時代、青の洞門は馬場の力の象徴と見られ、より豊かな歴史に取り組むことで、来訪者の増加と観光消費額の増加につながる	31
30	竹田市	別府大学 短期大学部	工学部 教授 吉村 充功	小学校の英語教育支援 ~小学校の英語授業と向かって課題に応じる講師	—
31	竹田市	大分大学	教育学部 准教授 村上 佑介	ブロンズ像メンテナンス技術習得 ~ブロンズ像の修復もひととまじめに難しく、技術を持つ人が継続して ~専門知識でいたずらに仕事につながるが、事業専門の修習を実施 ~市民参加で高齢者修復をさせさせの講座	32
32	竹田市	別府大学	文学部 准教授 福西 大輔	竹田市での文化祭調査と実施地図への活用 ~竹田市立野球場と竹田市(小野)地区の伝統文化を実施 ~地図調査の報告書を作成することに、学生による調査地の元気報告会を実施	—
33	宇佐市	別府大学	国際経営学部 教 授 高木 正史	地域コミュニティ協議会の自主財源確保支援 ~各議題会には活動、必要な費用に対して当面の支度金を交付しているが、 ~学生が議題会の運営に貢献するに伴い、議題会にかかる費用を負担する ~議題会を運営する	—
34	宇佐市	おおいた地域連携 プラットフォーム	コーディネーター 和田 皆雄	移住定住動画作成プログラム事業 ~移住定住者向けだけのPR動画、動画コンテストを学生の就業体験を通じて作成	33
35	豊後大野市	日本文理大学	保健医療学科 准教授 小野寺 博和	地域の竹林整備と竹活用事業のさらなる自主財源の確立に向けて ~企業と県内商賣機関の連携による地域課題解決事業により実施	34
36	由布市	大分大学	経営学部 准教授 林 勇樹	コミの減量 ~産官連携推進センター准教授 小野寺 博和 ~産業と農業から想い出される可憐さを減少させたため、コミ減量競争の普及 ~農業と観光業を統合して、地元の資源を活用して、地元を活性化するに向けた取り組み ~中間報告会を実施	—
37	国東市	大分大学	医学部 講師 猪俣 理恵 講師 徳藤 京輔	ブロンズ像メンテナンスケア健診の普及啓発 ~動物の死骸をもじって、特にブロンズ像の死骸をもじって、学生に取り組むことを ~動物の死骸をもじって、動物の死骸をもじって、学生に取り組むことを	—
38	国東市	別府大学	国際経営学部 教 授 阿部 博光	職員や市民に対するSDGsの普及啓発 ~市SDGs啓発事業を学生がフィールドワーク調査・発表	—

各大学で実践型地域活動を毎年展開！



2019年度より・・



OPEN CAMPUS SCHEDULE		
人文・社会系	理工・情報系	生涯
7月	8日(土)…太工基商専門学校	
	13日(土)…大分県立芸術文化短期大学 14日(日)…立命館アジア太平洋大学	
	14日(日)…立命館アジア太平洋大学 14日(日)…大分県立芸術文化短期大学	
	15日(火)…筑波大学 筑波大学附属太学部	15日(火)…
	20日(土)…日本文理大学 日本文理大学	20日(土)…
8月	21日(日)…日本文理大学 21日(日)…筑波大学附属短期大学 21日(日)…九州短期大学	21日(日)… 21日(日)…
	21日(日)…日本文理大学	21日(日)…
	24日(土)…日本文理大学	24日(土)…
	25日(日)…立命館アジア太平洋大学	25日(日)…
	26日(日)…筑波大学附属短期大学	26日(日)…
	27日(月)…大分大学	27日(月)…
	28日(火)…大分大学	28日(火)…

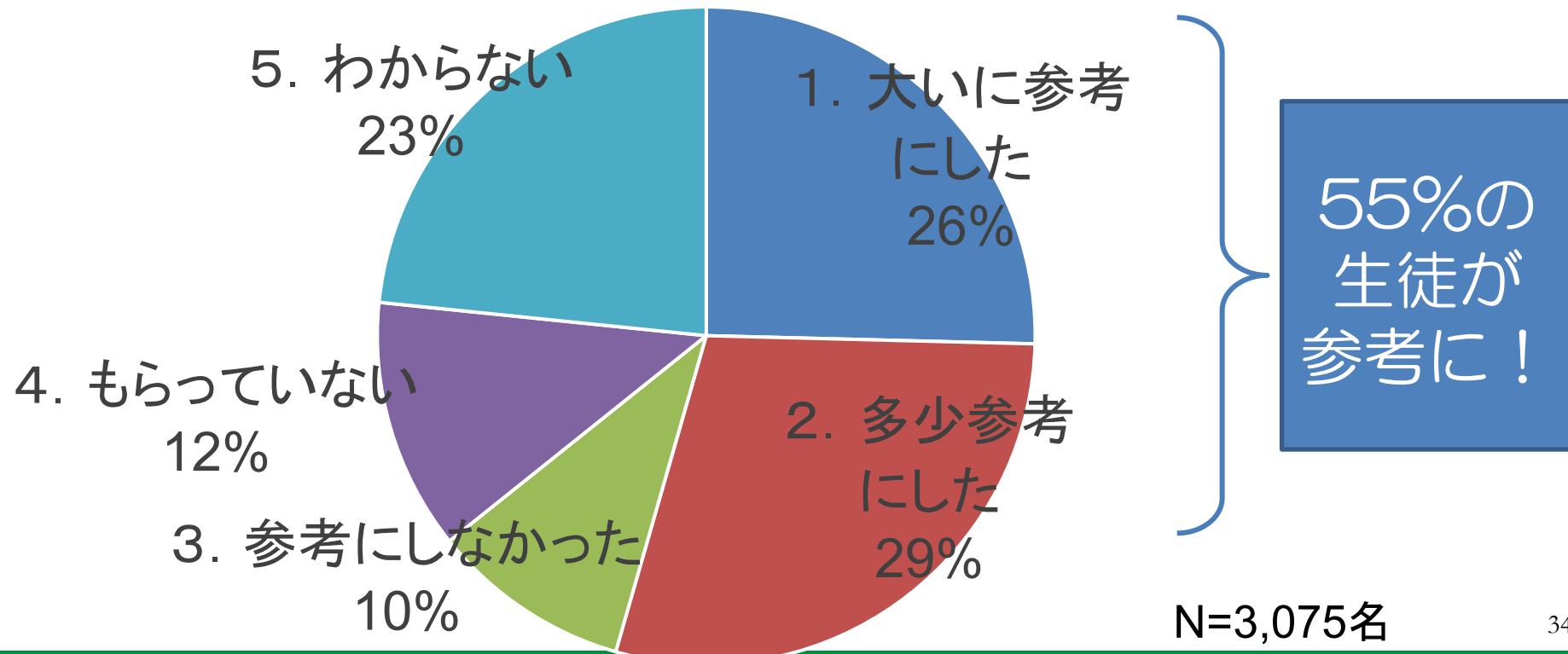


オープンキャンパスガイドは毎年6月に県内全高校生
進学ガイドは毎年2月に県内全1・2年生に配布
現在はWeb版で運用しチラシデータを配布

2019年度～2023年度は「進学者確保事業」として
県からどちらかに補助あり
現在は改革総合支援事業（プラットフォーム型）の
採択分を活用して本学が負担

オープンキャンパスガイド2023 の生徒の評価

Q. 今回のオープンキャンパスの参加にあたって、
高校で配布された「大分県オープンキャンパス
ガイド」を参考にしましたか。



私立大学向けの補助



令和5年度一般会計2月補正予算案(第4号)

大分県総務部財政課
令和6年2月26日

国の補正予算を受け入れるとともに、足下の価格高騰にも対応し、県経済の活性化等に取り組みます。併せて、事業執行に応じた所要の補正を行います。

(2) その他

(単位:千円)

事 業 名	予 算 案	事 業 の 概 要	所 管 課
11 新 私立大学物価高騰対策緊急支援事業	34,560	物価高騰の影響を受けている私立大学の運営継続を図るため、電気代等高騰分の一部を助成する。 ・対象施設 県内の私立大学・短期大学 ・支 給 額 在籍者一人当たり3,000円	政策企画課

R5年度補正で国の物価高騰対策を活用して
県内私立大学・短大への補助を実現！

- ・ 県担当課とのコネクションを活かして可能性や条件等の打診・交渉
- ・ 本学が県私立大学・短期大学協会の事務局を務める
- ・ 各校へのエビデンスの提出依頼

県知事との関係性

- 2023年4月に佐藤 樹一郎 知事が就任
(直前に大分市長を8年務める)
- 本学が当番校を務めた私大協 九州支部
2023年度 秋季総会 情報交換会に来賓出席
- 2024年度～ 本学入学式に来賓出席
- 2024年度～ 地域連携プラットフォーム 定時総会に出席



地方大学としての使命と連携強化に向けて

- 県議会政策研究会での橋本学長講演（未来にむけて 大分県の“知の総和”を考える）
2025/2/25
- 初等中等教育機関を巻き込んだ地域への教育プログラムの充実：2024年度は45件
- 幼少期からの郷土教育に地域の大学生が関わり続ける
- 今後も過疎高齢地域には一過性ではなく継続的に学生・大学が関わり続ける
- ミクロ的にはキャンパスが立地する地区は人口増加地域であり、広大なキャンパスを開放した地（知）の拠点として地域創生の牽引役に



まとめにかえて

- 人口減少が急激に進み、進学率が高くない大分県にとって、
地域のリーダーとなる大卒人材を輩出する本学は貴重
- 地域は教育資源の宝庫であり、多様な主体との越境学修は
学生を大きく成長させる
- 地域や産業界と共に学生、教職員が柔軟、機動的に汗をかけ
るのは私大の強み
- 地域や地元産業界、高校等は大学教育の変化を大学関係者が
思うほど知らない（大学からの積極的な情報発信と企業側の
教育への積極的な参画が必要）
- コロナ禍で地域や地元産業界との関わりが薄くなつたことで
学生の地域志向が若干低下するとともに、オンライン就活で
都会の企業が本学の人材の価値に気付いた（学生の人生に
とってはいいことかもしれないが県にとっては？）
- 地域や自治体、企業等とのコーディネートができる教職員の
育成は課題

「地域構想推進プラットフォーム」構築等推進事業

令和8年度要求・要望額

15億円
(新規)



● 背景・課題

- 急速な少子化が進行する中、学生募集停止が相次ぐなど地域の高等教育機関に困難が生じており、地元進学希望者の高等教育機会の確保や、地域の生活・産業基盤等に大きな影響が生じる恐れ。
- このため、2040年の社会を見据え、各地域の高等教育を取り巻く状況や課題、将来の人材需要等を共通認識し、地域関係者と一体となって具体的な取組につなげることが必要。
- 地域の高等教育機関単独での取組には限界があり、**地域にとって真に必要かつ魅力ある高等教育機関へのアクセス確保**のため、**各地域の大学間・産学官金等間の連携推進方策**を講じる必要。

- 大学進学者数推計
(2024年) 約63万人 ⇒ (2040年) **約46万人**
- 大学進学時の都道府県別流入・流出者
⇒ (2024年) **38道県で流出超過**
(出典) 文部科学省調べ
- 若い世代が出身地域を離れた理由
⇒ 男女ともに、「**希望する進学先が少なかったから**」が最多の理由 (出典) 内閣府調べ

2040年の社会を見据えつつ、地域の高等教育機関へのアクセス確保・人材育成を推進するため、
各地域の施策展開に資するプラットフォームのモデル構築を実施

◆事業内容

- 地域の人材需給等を踏まえた高等教育機関における人材育成のあり方などについて、地域内の高等教育機関の長と地方公共団体の首長をはじめとした産学官金等の関係者が主体的かつ継続的に議論を行う協議体（地域構想推進プラットフォーム）を構築。
- 議論を行う協議体に配置される大学間・産学官連携の推進役となるコーディネーターを中心に、各地域の魅力的な高等教育機関づくりに関する取組を推進。
- 採択事業の参画機関（高等教育機関、地方公共団体等）と、文部科学省をはじめとする関係省庁との定期的な対話の機会を設け、モデル構築に向けた強力な伴走支援を実施。

【事業期間】3年（令和8年度～令和10年度）

【件数・単価】10件×1.5億円程度

※モデル構築という性質を踏まえ、採択に当たっては事例の多様性についても考慮。

アウトプット（活動目標）

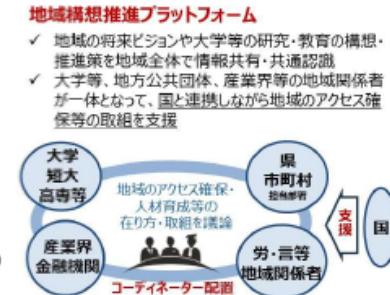
- モデル事業の採択数

短期アウトカム（成果目標）

- 目標値に達したKPI数/採択事業ごとに設定した全てのKPI目標数

長期アウトカム（成果目標）

- PFでの議論を踏まえて、地域アクセス確保や、地域において必要な人材育成に向けた取組を行なう大学の数



【プラットフォームでの議論を踏まえ期待される取組例】



（担当：高等教育局大学振興課地域大学振興室）

ご清聴ありがとうございました

yoshimuramt@nbu.ac.jp



自己紹介

- 吉村 充功 (よしむら みつのり)
- 福岡県北九州市出身
- 1976年3月生まれ
- 1994年 福岡県立戸畠高等学校 卒業
- 1998年 広島大学 工学部 第四類
(建設系) 卒業
- 2003年 広島大学大学院 工学研究科
環境工学専攻 博士課程修了
【博士（工学）】
- 2003年 日本文理大学 工学部
建設都市工学科 講師
- 2006年 同 工学部 建設都市工学科
助教授
- 2006年 同 基礎学力支援センター長
- 2007年 同 人間力育成センター長
- **2014年 同 工学部 建築学科 教授**
- 2014年 同 学長室長
- **2017年 同 教育推進センター長**
- **2023年 同 副学長**

【主な社会貢献】

＜現職＞

- 公立大学法人大分県立看護科学大学 経営審議会 委員
- 公益財団法人大分県建設技術センター 理事
- 大分県協働推進会議 会長
- 大分県「安心・元気・未来創造ビジョン2024」
推進委員会 委員
- 大分県立高等学校・中学校第三者評価委員会 委員
- 大分県教育委員会「通学区域制度検証委員会」委員
- 大分県広域交通ネットワークアドバイザー
- 大分市 おおいた都心まちづくり会議 会長
- 臼杵市総合計画審議会 会長
- 竹田市都市計画審議会 会長
- えひめ・おおいた交流事業実行委員会 委員 ほか多数

＜過去の役職＞

- 公益財団法人日本財団学生ボランティアセンター 理事
- 日本リメディアル教育学会 理事
- 文部科学省 私立大学研究プランディング事業委員会
審査部会 委員
- 佐賀大学・西九州大学 大学COC事業
外部評価委員会 委員長
- 大分県 安心・活力・発展プラン2015 推進委員会 委員
- 大分県自転車活用推進有識者会議 委員長 ほか多数